



Title	マウイ島ラーハイナー現地公聴会における沈黙と共感 ：議会内公聴会との比較を念頭に
Author(s)	古川, 敏明
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2025, 2024, p. 13-22
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/102268">https://doi.org/10.18910/102268</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# マウイ島ラーハイナー現地公聴会における沈黙と共感 —議会内公聴会との比較を念頭に—

古川 敏明

## 1. 導入

応用会話分析研究をテーマとする言語文化共同研究プロジェクトでは、アメリカ合衆国の連邦議会が主催する公聴会の分析が進められてきた。昨年度は、誰もが知る企業の代表者が証人として召喚された議会内公聴会を分析対象とするまとまった成果が発表されたことにより、研究の進展が新たな段階に入ったように見える (岡田, 2024; 福島, 2024; Kikuchi, 2024)。これらの先行研究を踏まえた上で、本稿では議会の外で開かれる現地公聴会 (field hearing) へと分析対象を広げ、その特徴を明らかにする。

具体的には、(1) 議会内ではなく現地公聴会における相互行為を分析し、(2) アメリカ本土ではなくハワイ州で実施された事例に着目することで、比較の視点を導入し、言語文化共同プロジェクトへの貢献を目指す。特に、災害による被害を受けた住民の声を聞くことを目的としたハワイの現地公聴会からのデータを分析し、現地公聴会では議会内公聴会よりも緩やかな時間管理が行われていることを指摘する。この点を軸に論を展開し、マウイ島ラーハイナーで行われた現地公聴会では議員が聞き、共感を可視化することが最優先事項として位置付けられていると主張する。そして、当該共同プロジェクトが主たる分析対象としてきた議会内公聴会の制度的な特徴を逆照射することを試みる。

本稿のアウトラインは以下の通りである。まず、2節で公聴会及び類似の制度的場面について整理する。続いて3節ではハワイ州で行われた現地公聴会について民族誌的な記述を含めた説明を提示する。4節では議会内公聴会からの抜粋と比較しつつ、現地公聴会からの抜粋の分析を進めていき、5節で結論を述べる。

## 2. 背景—公聴会と類似の制度的場面—

公聴会は制度的な場面である。公聴会における相互行為の研究を進展させる上で、類似の場面、特に裁判における相互行為に関する先行研究の成果を取り込んでいくことが必要だと思われる。とりわけ先行研究で分析されてきたのが尋問であり、裁判には自分側の証人を尋問する主尋問 (direct examination) と相手側の証人を尋問する反対尋問 (cross examination) がある。米議会公聴会で議員が証人に対して行う行為は、反対尋問と多くの共通点があるようと思われる。議員の多くがロースクールでトレーニングを受け、弁護士資格を持つであろうことを考慮すると、実際にこの訓練の成果が公聴会でも実践されていると推測される。

一方、米議会公聴会で議員が行う尋問はしばしば英語メディアによって grill (Kerr, 2023, March 23) あるいは grilling (Soo, 2024, February 2) と描写されることに注意したい。grilling は一見「厳しい、徹底的な追求」という意味だが、この「追求」は「論理的」で「合理的」というより、「恣意的」で「感情的」な「詰問」や「糾弾」のように聞こえることもある。議会公聴会は議員が集団で証人を「追求」するという、利害関係者に向けたパフォーマンスを行う場、ある種の「政治ショー」が行われる「劇場」という性格を有する。

本稿では公聴会の参加者たちの視点から、公聴会が通常、どのような活動として理解されているかを明らかにしたい。そのため、米議会の小委員会が実施した現地公聴会と呼ばれる種類の公聴会を分析する。これは委員会のメンバーたちが議会内ではなく、議会外つまり現地に赴いて、証人から話を聞くために開催するものである。事業者たちの声を聞くことを目的としていたり (Karni & Edmondson, 2023, March 5)、自然災害で被害を受けた地域住民の声を聞くことを目的としていたりする (U.S. House Committee on Financial Services Democrats, 2015, November 6)。現地公聴会は、議会内で行われる公聴会と異なるいくつかの重要な特徴を持つ。まず、証人が議会に呼ばれるのではなく、議員が現地に赴く。次に (政治専門チャンネル C-SPAN を除けば) 主流マスメディアが集結するというより、地域メディアにとって取材が行いやすい状況である。議会内の公聴会との比較対象として現地公聴会を分析し、前者の制度的特徴も浮き彫りにしていく。

2023年8月に火災で甚大な被害が出たハワイ州マウイ島ラーハイナー (Lāhainā) で実施されたのも現地公聴会である (Committee on Oversight and Government Reform, 2024, August 21)。なお、プレスリリースによると、当該公聴会は議員が証人から話を聞くことを目的としており、パブリックフォーラム (public forum) ではないと明記されている。用語を整理しておくと、パブリックフォーラムは公開討論や意見交換の場を指すのに対し、類似のタウンホールミーティング (town hall meeting) はより地域や政治と密接に関連するイベントで、住民が直接質問し、公的機関の代表者が回答する場を指す。本稿が分析する現地公聴会は連邦議会の議員が現地に赴き、召喚した証人に質問をする場である。それぞれ参加の枠組みが異なることに注意したい。(ただし、共和党が現地公聴会を開催することについて、宣伝やプロモーションが主であることを意味する road show という用語を見出しに用いて揶揄する記事 (Karni & Edmondson, 2023, March 5) があるようだ。)

### 3. 方法—マウイ島ラーハイナー現地公聴会—

2023年8月にハワイ州マウイ島ラーハイナーで起こった火災により甚大な被害が生じ、死者は100人以上、焼失した家屋は2200件を超えた (Alfonseca & Sarnoff, 2024, October 3)。ラーハイナーがかつてハワイ王国の首都であった歴史ある街であることも衝撃を増すことに寄与していたかもしれない。現地公聴会は火災から約1年後の2024年9月4日にハワイ州マウイ島ラーハイナーのシビック・センターで開催された。政府運営と連邦労働力小委員会 (Subcommittee on Government Operations and the Federal Workforce) のピート・セッションズ (Pete Sessions) を議長とし、第1部の後に休憩を挟んで第2部が行われた。第1部には4名、第2部には5名の証人が召喚され、所要時間はそれぞれ1時間53分と1時間19分だった。

現地公聴会の行為連鎖は議会内公聴会と同様、まず議長による開催の宣言が行われ、証人による宣誓の後、証人が5分程度で順番に冒頭陳述を行っていく。その後、議長が小委員会の委員である議員を指名し、指名された議員が持ち時間の中で質問を開始する。また、参加者たちの配置も議会内公聴会と同じく、会場の前方に議長を含む小委員会の委員たちが横一列に座り、その正面には証人たちが委員と相対して横一列に座り、証人たちの背後には聴衆が座っている。

ただし、委員たちの背後、つまり会場の正面の壁には星条旗と共にハワイ州の旗が掲げられ、委員たちがおそらくハワイ州関係者から贈られたレイをかけているという状況は、議会内公聴会と対照的であり、現地公聴会がハワイで行われているということを窺わせた。さらに、正面に座った委員4名のうち、中央の議長セッションズと委員のケイティー・ポーター (Katie Porter) は

レイをかけているが、両端に座ったエド・ケース (Ed Case) とジル・トクダ (Jill Tokuda) はレイをかけていない。後者 2 名はハワイ州選出の上院・下院議員であり、前者は他の州で選出された議員であるからいわば「ゲスト」という扱いであることがわかる。(会場を聴衆の視点から見ると、左からケース、ポーター、セッションズ、トクダという席順になっている。)

本稿の主たるデータは、政治専門チャンネル C-SPAN のウェブサイトで視聴できる動画 (C-SPAN, 2024a, b) である。(ちなみに、画面上の企業ロゴを除けば同じ動画が Forbes の YouTube チャンネルでも 1 つの動画として公開されている。) 議会内と議会外公聴会の違いが観察される箇所のトランスクリプトを作成し、さらなる分析を行なった。マルチモーダル会話分析のため、発話以外のモードも一部トランスクリプトに反映し、参加者に特定の記号 (%や&) を割り振つて、動作の開始部を示した。

#### 4. 分析—沈黙と共感の相互行為—

本節ではまず議会内公聴会で議長が時間に言及している箇所を確認した上で、現地公聴会のデータの分析へと進んでいく。

以下は環境問題に関するオンライン開催の公聴会における議長の発言箇所からの抜粋である (古川, 2024, p. 16, 抜粋 4)。

##### 抜粋 1—持ち時間は 5 分—

1 G: uh thank you. (0.2) uh I'm gonna hold tight (.) tuh to the  
five minute rule here, for the remainder of ( ). (0.5)

議長 G のように時間への言及は、議会内公聴会においてしばしば観察される。ここでは、ある委員から別の委員への質問に移る間に、公聴会における持ち時間を厳格に適用する旨が述べられている。同様に、TikTok の CEO ショウ・ジ・チュウが召喚された議会内公聴会でも、議長が “no. we're gonna move on” と述べている箇所について、「チュウの要求を明示的に否定し、公聴会の進行が優先されることを理由として伝え」たと分析されている (岡田, 2024, p. 6)。これは持ち時間に関するルールが別の行為 (証人に反論の機会を与えない) の資源として利用された例だ。こうした場面において時間管理を厳密に行なうことが話題となる際は、質問を行う議員が大勢控えていることが暗に示される。例えば、上記 TikTok の公聴会の所要時間は約 5 時間で、尋問を行った議員の数は “dozens of lawmakers” と報じられている (Kerr, 2023, March 23)。C-SPAN のウェブサイトでこの公聴会の参加者として表示されている議員の人数は議長を含め 50 名である。議長が時間管理を行い、質問者が 5 分の持ち時間を遵守したとしても 4 時間以上かかる計算になる。質問者が多い公聴会において、議長は時間管理という重要で差し迫った問題に直面し、委員は限られた時間の中でメディアや有権者に印象を残したいという動機を持っていることを確認しておきたい。もちろん、ここには必要な説明はしたいが、不必要で理不尽な追求は受けたくないという証人の動機や利害も関わってくることになるので、公聴会における相互行為が複雑なものとなる。

続いて、現地公聴会の第 1 部と第 2 部からの抜粋を分析する。抜粋 2 は第 1 部からのやりとりで、ポーター議員 (KP) が 3 人目の証人への質問を終えようとしている場面である。ポーターのコメントと議長セッションズ (PS) による応答に着目したい。

## 抜粋2—委員の人数—

23 KP .h uhm so I would encourage you to think about that.  
24 I actually have more questions but I'm gonna-  
25 er my time has expired .h and I hope we have a chance  
26 to come back around mister chair if we can.  
27 (0.8)  
28 PS thank you very much ((gavel)) gentlewoman yields back  
29 her time and the answer to that is (0.9) yes we will do  
30 that. you had .h previously uh directed that comment  
31 to me and I wanted to be .h as realistic as I could.  
32 we don't have forty members here. we have members  
33 who are here [( )]  
34 KP [you should be thankful.] \$we don't have forty\$  
35 [mem[b(h)e(h)r(h)s.  
36 Aud [(laughter)]  
37 PS [(well)]  
38 (0.7)  
39 PS I agree with that also.  
40 Aud ((laughter))  
41 PS we now move uh to the- distinguished gentle(man)  
42 ( ) for her five minutes.  
43 JT thank you mister chair: and

KPは1行目で証人に対し、先行する話題について無理強いしないスタンスを示している。2行目からはまだ質問があるがフロアを手放すことを示唆しつつ、自己開始・自己修復し、3行目で自分の持ち時間に対する理解を示した上で、4行目にかけて、あとで再度質問したいという要望を議長PSに伝えている。

間の後、PSは6行目でKPに感謝を述べると共に、木槌を叩くことで、KPの持ち時間が終了したことを示している。PSは7行目からKPの要望に肯定的な応答すると、8行目ですでにKPから自分に対して同じ要望があったことに言及している。PSは9行目で「現実的」(realistic)に對処したいという自己の希望を明かしているが、これは質問をする議員の持ち時間の管理についてということだろう。PSは現実的に時間管理することが可能な理由として、10行目で小委員会のメンバー数(forty)に言及している。

PSがメンバーへの言及を継続している間、12行目でKPが発話を開始し、証人たち(you)に向けて感謝すべきであると述べ、その理由として、PSが言及したのと同じ小委員会の人数に笑いを含んだ声で言及している。KPが人数に言及した直後の14行目で聴衆(Aud)が笑っている。換言すれば、委員は40人もいないので、KPが再度質問をする時間を確保できるというPSの含意を利用する形で、KPは議会内と現地公聴会の状況を対比することにより、現地公聴会の証人たちが大勢の委員たちから次から次へと尋問される心配はないことを笑えることとして提示した。そしてその試みは成功したといえる。現地公聴会の参加者たちが通常、議会内公聴会でgrillingが行われる政治的劇場に関する文化的知識を共有しているからこそ笑いが成立したのである。

KPが発話を終える直前で、まだ聴衆が笑っている15行目で、PSは応答を開始し、少し間を置いてから、17行目でKPの見解に同意を表明すると、18行目で再び聴衆が笑っている。その後、PSは次の質問者へと移行していく。

次の抜粋3は、第2部からのやりとりである。2番目の証人として冒頭陳述をするマウイ郡の市長リチャード・ビッセン (Richard Bissen, RB) の発話、それに対する議長セッションズ (PS) の応答に着目したい。4行目にはビッセンの後に証言する証人ローレン・ナーム (Lauren Nahme, LN)、6行目には委員のトクダ (JT) による行為がトランスクリプトに反映されている。

### 抜粋3—沈黙—

1 RB if we don't recognize the faces (0.4) .h hh .h (1.3)  
2 .h (1.9) .h of our friends and our family. (3.0) as we  
3 repopulate .h then we will have lost this battle (.)  
4 for our people. .h (2.1)% (1.9) tch and even one more family  
ln %右手で RB の左腕に触れる  
5 loss is one too many. (1.0) .h mahalo.  
thank you  
6 (12.3) & (2.0)  
jt & PS を見る  
7 PS ((clang)) mister mayor we acknowledge (0.8) and  
8 respe:ct (1.0) not only the effort that ↑you (.) and  
9 others who will speak today .h (.) but with great respect  
10 that I will recognize and do as well as my colleagues .h  
11 that each of you have a task today (0.5) and that is to  
12 represent people. (1.2) your words (.) are sincere (1.2)  
13 your accomplishments (0.5) ca:n and should be noted. (0.6)  
14 .h but we are here also (0.9) to look to the future (0.5)  
15 about how we will continue to work with you .h based upon  
16 the past (0.7) that ng- (0.5) we think is important (0.7)  
17 so for each of you who now follow the mayor (1.9) please  
18 know this that we do recognize (2.2) the heartfelt emotion  
19 (0.4) that comes with this (0.6) and you will be given  
20 that time to express that (0.6) and we respect it (0.4)  
21 so thank you very much. (0.4) we now move to our next witness,

RBは先行する発話(抜粋なし)で時折言葉に詰まる様子を見せていましたが、1行目から2行目において、間を置き、大きく息を吸って吐き出す(hh)ことにより、著しい言い淀みを生じさせている。これはRBが自身の情動を可視化する行為だ。話題となっているのは、火災で消失したチーハイナーの街で居住が再開したとしても、住人の顔ぶれが変わってしまっているということが懸念されるという仮定のシナリオである。RBは3行目で戦闘の比喩を用い、4行目で再度長い間を置く。この際、隣のLNがRBの腕に触ることで共感を示すとともに、心理的なサポートを行っていると考えられる。RBは発話を再開すると、5行目で再び間をおいて息を吸い、最後にハワイ語(mahalo)で自らのフロアを手放す。

ここで次に期待される行為は議長PSがRBに感謝を述べ、冒頭陳述の終結を示し、次の証人による冒頭陳述へ移ると宣言することである。しかし、6行目には非常に長い間がある。公聴会という制度的場面では、参加者の誰でも順番をとることができるわけではない。誰も話し出さないのは次の話者が議長であるべきだという規範が作用しているからに他ならない。だから、この間は議長のPSに属する。実際、隣に座っているトクダが横を向きPSに視線を向ける様子が動画では確認できる。画面では6行目でPSは口を真一文字に結び、正面を見据えたまま、前に座るRBの方に視線を向けている。この時点では画面にはPSが映し出されており、ある意味、C-SPANの撮影者あるいはビデオスイッチャーも次の話者がPSであるという理解を示していると解釈することができる。

順番移行可能地点から 14.3 秒経過して、7 行目で議長 PS がようやく応答を開始すると、さらに約 1 分を費やして RB に語りかけるような発話をを行う。(冒頭でマイクをオンにした際に音が出る。) PS は呼びかけを行い (mister mayor)、ゆっくりと間を置きながら、小委員会という立場 (we) で、RB 他の証人たちによる証言 (effort) を認め尊敬する (acknowledge (0.8) and respect) と述べている。9 行目で respect を繰り返し (but with great respect)、今度は個人として (I)、そして他の委員にも言及しつつ (as well as my colleagues)、12 行目にかけて証人たちがラーハイナーの人々を代表してこの場で証言していることに対して肯定的な評価を表明する。PS は 14 行目から自らを小委員会 (we)、証人たちをハワイ州・ラーハイナーの人々 (you) と位置付けるとともに、17 行目で後者が市長である RB のリーダーシップのもとで行動するという理解を示している (each of you who now follow the mayor)。最後に、PS は 18 行目から 20 行目にかけて感情に言及し、証人たちにはその感情を表明する時間が与えられると述べてから、次の証人に移ることを宣言する。

PS は長い沈黙を利用してことで、RB に対する共感を可視化した。その後、まるで演説のように語りかけ、人称代名詞によるカテゴリー化や情動に関する資源を利用することで、さらには話すスピード、抑揚や繰り返しなどの文脈化の手がかりも用いることにより、共感の対象を RB から他の証人、そしてラーハイナーの人々へと広げていった。そして、議長 PS がこのような時間の使い方ができたのは、抜粋 1 と同様、公聴会の委員数が少なく、時間的制約が厳しくないという状況だったからだ。とはいえ、10 秒以上の沈黙と約 1 分の語りかけを行なったように、かなりの時間を費やすことによって、他州で選出された議員 PS は、ラーハイナーの人々への共感を効果的に表明したのである。ここで再び抜粋 2 のユーモアと関連づけると、委員の数が少ないことが笑いになったのは、通常の議会内公聴会では委員数が多く、持ち時間が限られている中で、運営をしなければならないという強い制約があるからだった。

次の抜粋も第 2 部からのやりとりになる。証人による冒頭陳述が続いていく中、最後の 5 人の証人 (SP) が陳述を終えたところで、議長セッションズ (PS) がどのように応答したかを見ていこう。注目すべき点は、これまでの抜粋よりもさらに長い約 2 分にわたって語りが行われ、議会内公聴会との差異が鮮明になる点である。最終的には、証人全員の冒頭陳述が終わり、委員による質問への移行が宣言される。

#### 抜粋 4—現地公聴会の下位分類—

1 SP I'll conclude, .h .h so (1.0) I thank you for your time,  
2 I look forward to working with all of you to find workable  
3 solutions that will allow our businesses and the community  
4 to recover. (0.3) and thrive once again, (0.5) it's going  
5 to take all of us .h we all need to be: (.) in the boat  
6 navigating together (.) (together.)  
7 (2.5)  
8 PS ahem ((noise)) gentleman yields back his time. (1.2) .h  
9 it does (1.1) does us good on this side of this (0.3) dais  
10 to know that each of you have placed your (0.5) hand on (0.5)  
11 the pulse of emotion. (0.7) because you (0.5) were a part of  
12 living through this (0.7) you're a part of the day to day work  
13 that went on. (0.7) you're part of the creation of .h how you:  
14 sustain people, (0.5) there's been talk about (1.3) god (1.1)  
15 and the beauty of this islands- these islands (0.8) and the  
16 need to make sure that ↑as we move forward we do this together.  
17 .hh I would hope that each of you understand that we respect

18 you, (0.5) and we do understand, (0.6) the: importance of the  
19 emotion that is related .h (0.6) not just to your: historical  
20 background .h or the legacy that you respect so much (0.3) but  
21 also to that moving forward. .h so I hope that (0.4) what we do  
22 today on this side of the dais, .h is respectful back for you  
23 and I have every reason to believe .h that it will be. .h but  
24 I wanna personally thank you and the people who sit behind you,  
25 (1.2) we did not think we c- come out here: (0.7) and hold  
26 a normal hearing .h just where we would ask questions,  
27 and then (.) take the information, .h and leave. (.) we  
28 recognize this is a longer process. (1.3) so with great  
29 respect (0.7) as the chairman of this subcommittee I'm gonna  
30 thank each of you (1.3) with that we will now move ↓ to  
31 distinguished gentlewoman from California? .h for her five  
32 minutes. gentlewoman's recognized. ((gavel))

1行目から6行目にかけSPが陳述を終結させている。抜粋3と比べるとかなり短い間の後、8行目で議長PSが証人の陳述が終了したことを確認している。続いて8行目から、PSは間を置きながら、委員が座る演台(this dais)を起点にした空間描写を行うことで、<公聴会の委員>と<証人>というカテゴリー化、あるいは<ハワイの外から話を聞きに来た者>と<ハワイ(特にマウイ島ラーハイナー)で暮らす者>というカテゴリー化を行っていく。その際、10行目と11行目では、情動に関する比喩を用いている(the pulse of emotion)。14行目からは証人による陳述の内容を振り返っている。15行目からは災害への対応は協働で行うべきものとして語られている。17行目からはrespectやemotion、さらにはrespectfulという語彙を用いることで、抜粋3でRBに対して行っていたような語り、ハワイの人々の行動に対する肯定的な評価が行われている。

25行目の比較的長い間の後、PSは現地公聴会のサブカテゴリーを話題にしている。この場で行っているのは通常の現地公聴会(normal hearing)とも異なり、より長い時間をかけて行われるプロセス(a longer process)だと述べている。このように、ラーハイナーで行われた現地公聴会が他の現地公聴会やさらには議会内公聴会と区別される発話が繰り返し観察されるのが本稿データの特徴だった。結果として、間接的にではあるが、議会内公聴会がより強い時間的制約を受けている制度的場面であることを確認できた。

## 5. 結論—現地公聴会の最優先事項から見えてくる議会内公聴会の特徴—

本稿では議会内公聴会と類似するいくつかの制度的場面を整理しつつ、アメリカ・ハワイ州で行われた現地公聴会の特徴を探ることを目指してきた。これまでのプロジェクトで、主流の対面公聴会とは異なるオンライン開催の公聴会を分析したことを踏まえ(古川, 2024)、本稿ではこれらの議会内公聴会と対をなす現地公聴会に着目することにより、逆説的にではあるが、議会内公聴会の特徴を浮き彫りにしようと試みた。公聴会における相互行為の分析に先立ち、3節ではラーハイナーの現地公聴会の会場の様子について簡潔ながらも民族誌的な記述をしたが、通常の公聴会との類似点がえた一方で、会場の内装や参加者の服装から特徴的な相違点、あるいは当該データを解釈する上で鍵となる文脈的なポイントを抑えることができたと思う。要点としては、連邦議会の議員が現地へ赴いていることが相互行為の展開に大きく影響していると同時に、参加者たちが現地公聴会をそのような状況として創出していたということができる。

4節以降では会話データの分析を通し、ラーハイナーの現地公聴会では、住民たちに対して共感的反応を示すことが最優先事項となる場面が散見された。議長セッションズの順番で生じた10秒以上の長い沈黙（抜粋3）は、共感を＜見えるもの＞にしていた。通常、会話において沈黙は隣接ペアの第2成分の遅延や欠落を指標し、選好されない応答が来ることを投射するものとして解釈される。沈黙は議会内公聴会において質問に対する応答がないことを覆い隠す効果もあることが指摘されている（岡田, 2014）。また、証人にとっては議員が暗示した懸念に応答する機会でもあり、その機会を見落とすことによって企業にとって致命的な帰結が生じうることが論じられている（Okada, 2019）。一方、公聴会ではないが足湯ボランティアと利用者のやりとりにおいては、「共感の技法」（西阪他, 2013）として、共感的反応が行われる3つのパターンが論じられている。利用者による経験の語りが行われた後、「一定時間以上の隔たりのうちに『直前』の発話に対して共感を示す事例はなかった」（西阪他, 2013, p. 170）と報告されている。

足湯データとラーハイナーにおける現地公聴会を比較すると、まず、セッションズは語りの受け止めと共感的反応、さらには語りの終わりを確認するやりとりを行う前に、（足湯データの例よりも）かなり長い沈黙を産出し、その間、頷くこともなかった。ただし、頷くことはなかったが、口を真一文字に結び、正面に座った証人を見据えていたので、ある種の受け止めを行っていたというように見えていただろう。次に、セッションズは大きな隔たりの後、証人による直前の発話に対して、さらなる受け止めと共感的反応を行なった。以上2点において、セッションズに帰属する沈黙とその後の行為は特徴的だった。つまり、セッションズの長い沈黙自体が共感を＜見えるもの＞とする行為なのであり、その後の追加的な受け止めと共感的反応を通じて、すでに示した共感をより強調するという連なりを形成していた。

本稿ではラーハイナーで行われた公聴会を分析することで、参加者たちが時間管理にどのような志向を示すかという観点から、議会内公聴会と現地公聴会の違いに光を当てた。また、現地公聴会内のサブカテゴリーが話題にされ、ラーハイナーの現地公聴会が差別化されていた（抜粋4）。セッションズは長い沈黙の後、議事を進行せずに約1分の演説を行い（抜粋3）、別の場面ではさらに長い約2分の演説を行った（抜粋4）。通常、議会内公聴会では証人の冒頭陳述に5分、委員の尋間に5分が与えられており、議長や委員がしばしば持ち時間に言及し、持ち時間を短く不十分なものとして扱うことが観察される。質問のない委員がより重大な利害関係を持つ委員に時間を融通することもある。議長による「融通無碍」な時間管理が観察されるラーハイナーの現地公聴会を分析することを通して、議会内公聴会はより厳しい時間的制約を持つ制度的場面であることを確認できた。議会内公聴会ではそうした制約の中で数十人の委員が交代で矢継ぎ早に尋問をしていく。そのような共有知識があるからこそ、ラーハイナーではポーター議員のコメントから聴衆の笑いへと続く連なり（抜粋2）が産出されていた。

最後に今後の展望を述べる。制度的場面に関する談話・会話分析の研究を進めていくには、議会内公聴会という特定の小ジャンルに絞って成果をまとめていくことが望ましいという考えがあるだろう。インタビューを例にとると、インタビューという広いジャンルではなくリサーチインタビューというように特定の小ジャンルに対象を絞り込むことが必要だ（e.g., Cameron, 2001, Chapter 10）。リサーチインタビュー、ジョブインタビュー（就職面接）、マスメディアのインタビュー一番組は、どれもインタビューという共通の名称を持つつも、参加の枠組みや目的が大きく異なる談話だからである。数年にわたり大阪大学にて展開してきた本共同プロジェクトが日本企業のToyotaやTakata、さらにはMetaやTikTokなど企業活動に関する議会内公聴会というジ

ヤンルに的を絞って着実に成果を積み重ねてきた現在、本稿及び関連する論考では研究基盤がより盤石になることを願いつつ、周辺的な仕事を試みた。これまで対面に対する「オンライン」、議会内に対する「現地」、企業活動ではなく「コミュニティ」、アメリカ本土に対する「ハワイ」を鍵概念として比較を可能とするようなデータの分析を行った結果、本プロジェクトが着目してきたデータの特徴を改めて確認できた。中長期的展望として、個人的には従来のアプローチに加え、会話分析以外のアプローチ、裁判における相互行為を含む議会内公聴会以外の制度的場面、アメリカ合衆国以外からのデータを取り込んでいくことも検討していきたい。

## 参考文献

- Alfonseca, K., & Sarnoff, L. (2024, October 3). Broken power lines caused deadly Maui wildfire, new report shows. ABC News. <https://abcnews.go.com/US/broken-power-lines-caused-deadly-maui-wildfires-new/story?id=114423744>
- Cameron, D. (2001). *Working with spoken discourse*. Los Angeles: SAGE.
- Committee on Oversight and Government Reform. (2024, August 21). *Sessions announces field hearing in Hawaii on federal response to Maui wildfires*. U.S. government.  
<https://oversight.house.gov/release/sessions-announces-field-hearing-in-hawaii-on-federal-response-to-maui-wildfires/>
- C-Span. (2024a, September 4). *House Oversight Subcommittee field hearing on federal response to Maui wildfires, panel 1* [Video]. <https://www.c-span.org/program/public-affairs-event/house-oversight-subcommittee-field-hearing-on-federal-response-to-maui-wildfires-panel-1/648472>
- C-Span. (2024b, September 4). *House Oversight Subcommittee field hearing on federal response to Maui wildfires, panel 2* [Video]. <https://www.c-span.org/program/public-affairs-event/house-oversight-subcommittee-field-hearing-on-federal-response-to-maui-wildfires-panel-2/648603>
- 福島 玲枝 (2024) 「Facebook の中立性をめぐる意味の構築—公聴会での回答における間接的回避の承認—」『言語文化共同研究プロジェクト』2023, 21-30.
- 古川 敏明 (2024) 「地名『カプーカキー』と『レッドヒル』の指標性—ハワイの環境汚染問題をめぐる公聴会の会話分析—」『言語文化共同研究プロジェクト』2023, 11-20.
- Karni, A., & Edmondson, C. (2023, March 5). House committee budgets swell as G.O.P. plans road shows across U.S. *The New York Times*.  
<https://www.proquest.com/nytimes/blogs-podcasts-websites/house-committeebudgets-swell-as-g-o-p-plans-road/docview/2782790169/se-m-2?accountid=14891>
- Kerr, D. (2023, March 23). Lawmakers grilled TikTok CEO Chew for 5 hours in a high-stakes hearing about the app. NPR.  
<https://www.npr.org/2023/03/23/1165579717/tiktok-congress-hearing-shou-zi-chew-project-texas>
- Kikuchi, H. (2024). Multi-turned Question Preface that Requires Remedial Responses. 『言語文化共同研究プロジェクト』2023, 31-40.
- 西阪 仰, 早野 薫, 須永 将史, 黒嶋 智美, 岩田 夏穂 (2013) 『共感の技法—福島県における足湯ボランティアの会話分析—』勁草書房

岡田 悠佑 (2014) 「ドーナツを穴だけ残して食べる言語文化学的方法—会話分析による考察—」  
『言語文化研究』 41, 27-46.

Okada, Y. (2019). Discursive construction of “antisocial” institutional conduct: Microanalysis of Takata's failure at the U.S. congressional hearings. *Journal of Pragmatics*, 142, 105–115.

岡田 悠佑 (2024) 「『放置されている』ことを示すこと—TikTok を巡る米公聴会の会話分析—」  
『言語文化共同研究プロジェクト』 2023, 1-10.

Soo, Z. (2024, February 2). Singaporeans bemoan U.S. Senator's ‘ignorant’ grilling of TikTok CEO. AP.  
<https://apnews.com/article/tiktok-shou-chew-singapore-cotton-af72f8d53686f8bb378aec1193cdee6c>

U.S. House Committee on Financial Services Democrats. (2015, November 6). *Leading Financial Services Democrats Continue to Examine Federal Commitment to Post-Katrina New Orleans*. U.S. government. <https://democrats-financialservices.house.gov/news/documentsingle.aspx?DocumentID=399455>